



Bank of Japan Fukushima Branch

福島県金融経済概況 (2021年2月分※)

【概況】

県内景気は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響から、持ち直しの動きが鈍化している。

最終需要の動向をみると、個人消費は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により、外食や旅行等のサービス消費を中心に減少している。住宅投資は、減少している。設備投資は、幾分弱めの動きがみられている。公共投資は、東日本大震災からの復興関連工事、東日本台風等の復旧関連工事を中心に、増加している。

鉱工業生産は、自動車関連のペントアップ需要が一巡していることに加え、福島県沖地震の影響により、幅広い業種で減産を余儀なくされていることから、持ち直しの動きが足踏みしている。

雇用・所得環境は、人員不足感が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動きとなっている。

先行きについては、東日本大震災からの復興需要のピークアウトに加え、新型コロナウイルス感染症の影響には、注意していく必要がある。

※ 直近までに入手可能な金融経済統計およびヒアリング情報をもとに、県内の金融経済動向を取り纏め。

【前回からの基調の変化】

総括	個人消費	住宅投資	設備投資	公共投資	生産	雇用・所得
→	→	→	→	→	↓	→

(注)

- ↑ : 前回から改善度合いが強まっている、もしくは悪化度合いが弱まっている。
- : 前回から変化なし。
- ↓ : 前回から改善度合いが弱まっている、もしくは悪化度合いが強まっている。

【本件に関する問い合わせ先】

日本銀行 福島支店 総務課
TEL:024-521-6353

本資料は、ホームページ
(<https://www3.boj.or.jp/fukushima/>)
にも掲載しています。



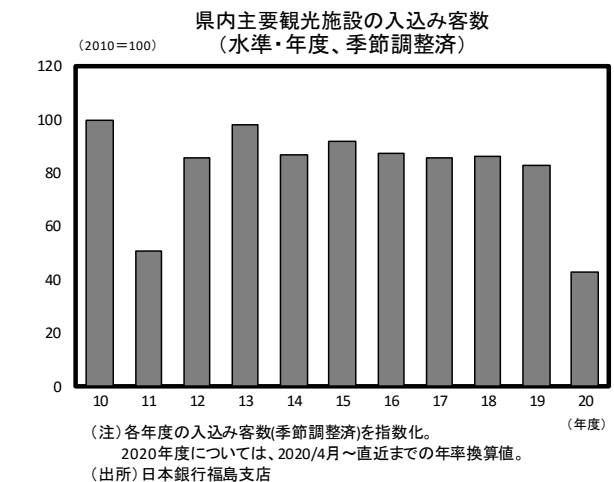
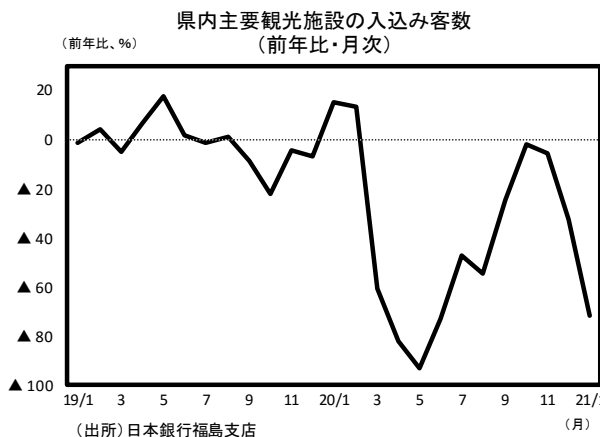
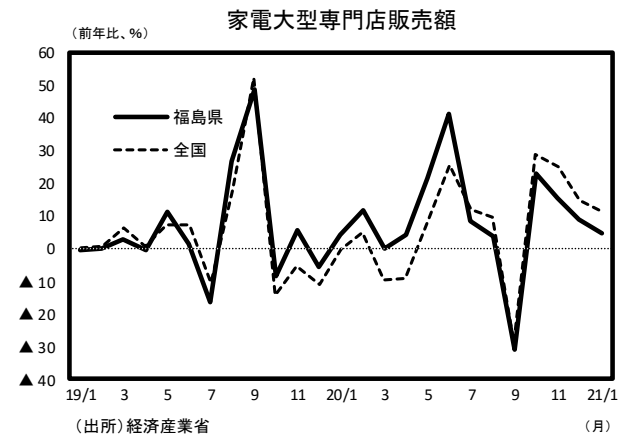
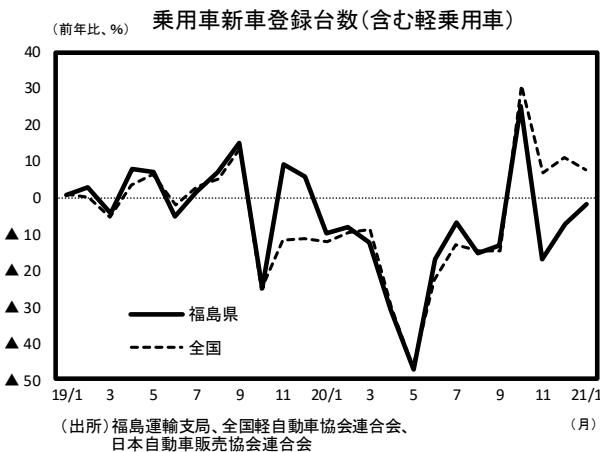
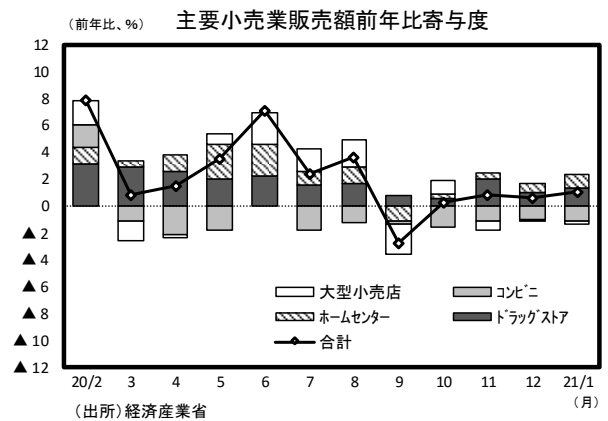
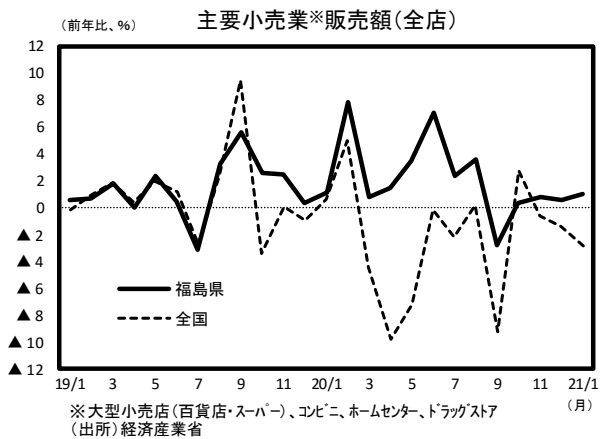
1. 需要項目別の動向

【個人消費】

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により、外食や旅行等のサービス消費を中心に減少している。

主要小売業販売額（1月）は、前年を上回った。乗用車新車登録台数（1月）は、前年を下回った。家電大型専門店販売額（1月）は、前年を上回った。この間、外食や旅行等のサービス消費は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により、厳しい状態にある。

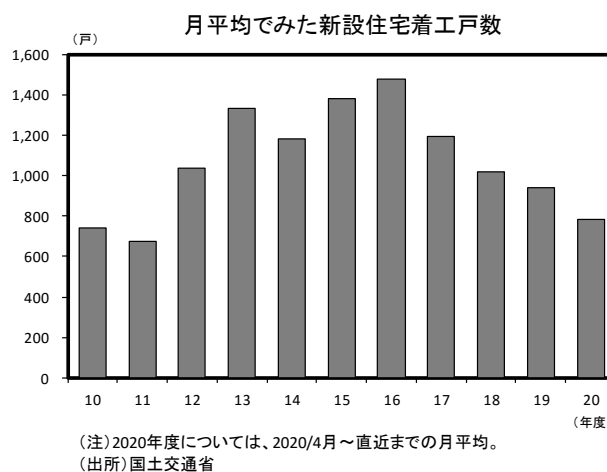
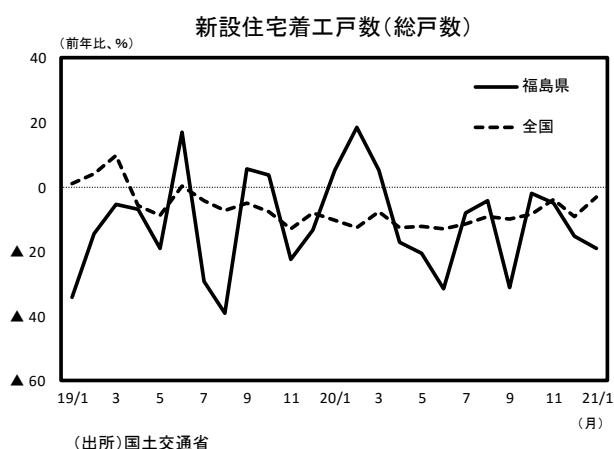
県内主要観光施設や宿泊施設への入込みは、新型コロナウイルス感染症の再拡大や政府の経済対策の一時停止等による影響から、大幅に減少している。



【住宅投資】

住宅投資は、減少している。

新設住宅着工戸数（1月）は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を下回った。

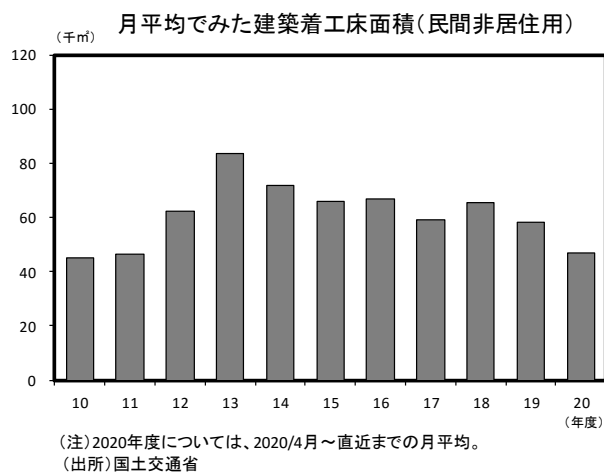
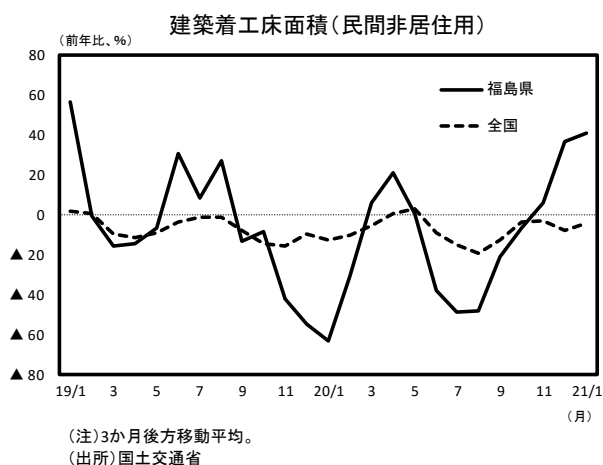


【設備投資】

設備投資は、幾分弱めの動きがみられている。

12月短観における県内企業の2020年度設備投資計画をみると、非製造業で新規出店や店舗改装投資などがみられていることから、前年度を上回る計画となっている。もっとも、新型コロナウイルス感染症の影響による収益の悪化や先行き不透明感を受けて、投資の抑制や先送りの動きがみられており、製造業では前年度を下回る計画となっている。

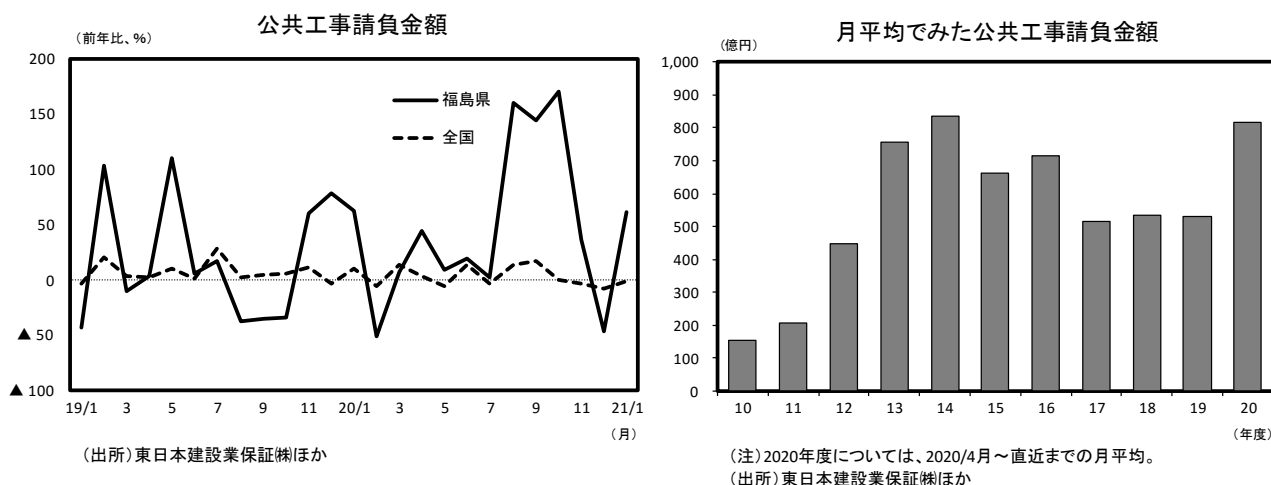
建築着工床面積（民間非居住用）（1月<3か月後方移動平均>）は、前年を上回った。



【公共投資】

公共投資は、東日本大震災からの復興関連工事、東日本台風等の復旧関連工事を中心に、増加している。

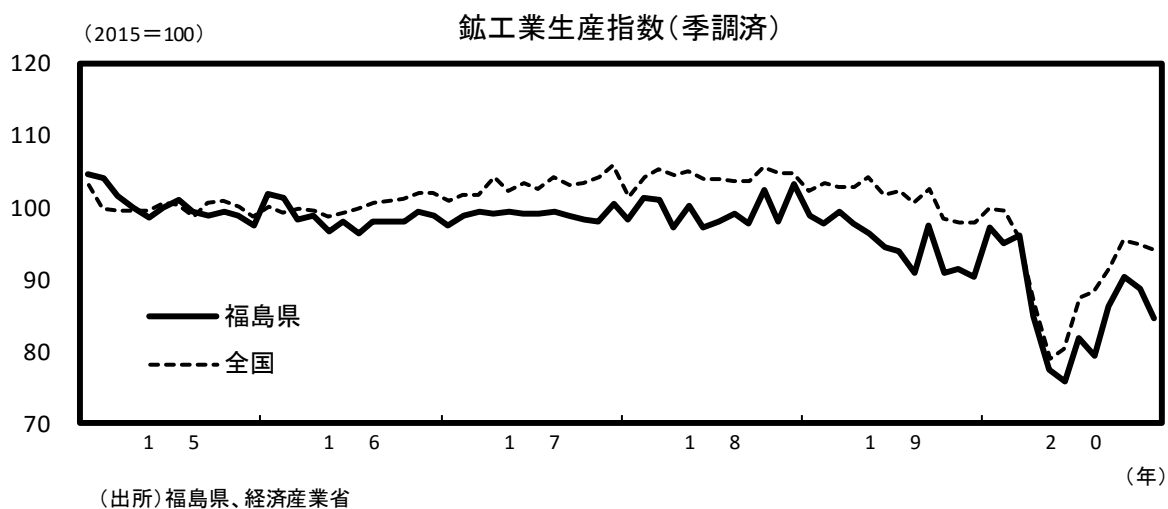
公共工事請負金額（1月）は、前年を上回った。この間、資材価格は、東日本大震災前に比べて高い水準で横ばい状態にある。



2. 生産動向

鉱工業生産は、自動車関連のペントアップ需要が一巡していることに加え、福島県沖地震の影響により、幅広い業種で減産を余儀なくされていることから、持ち直しの動きが足踏みしている。

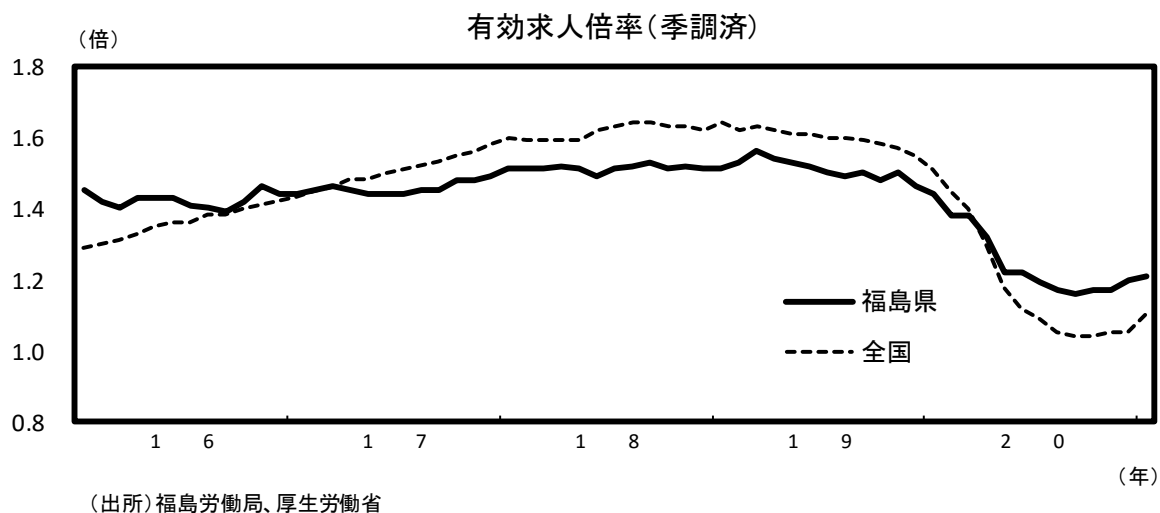
鉱工業生産指数（12月）を主な業種別にみると、輸送機械は上昇した一方、情報通信機械、汎用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、化学は低下した。



3. 雇用・所得

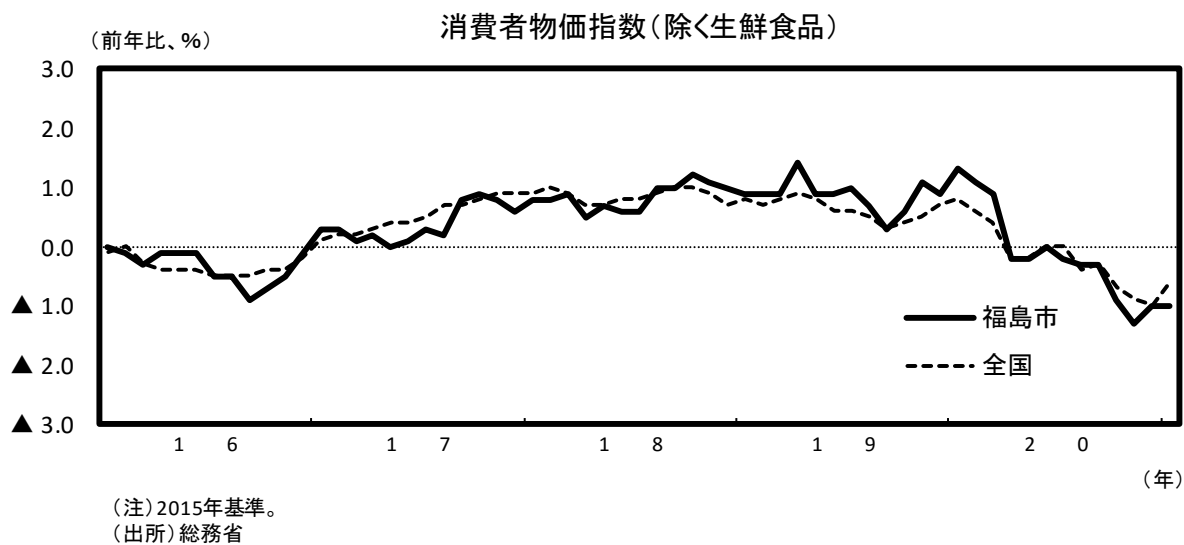
雇用・所得環境は、人員不足感が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動きとなっている。

有効求人倍率（1月）は、上昇した。



4. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品）（1月）は、前年を下回った。



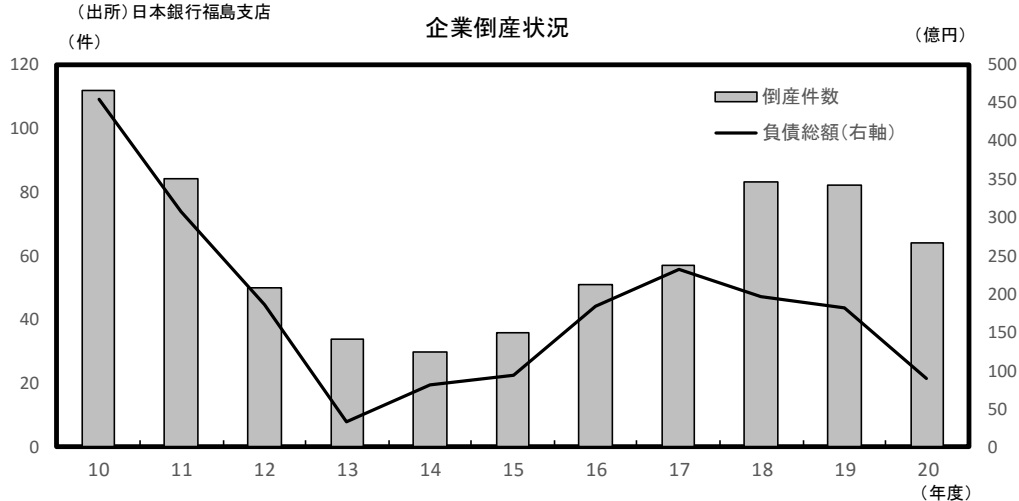
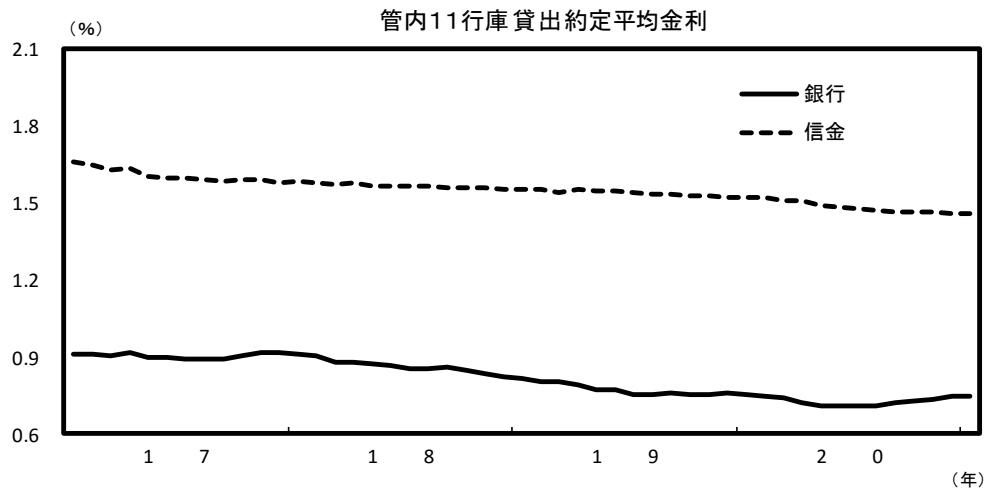
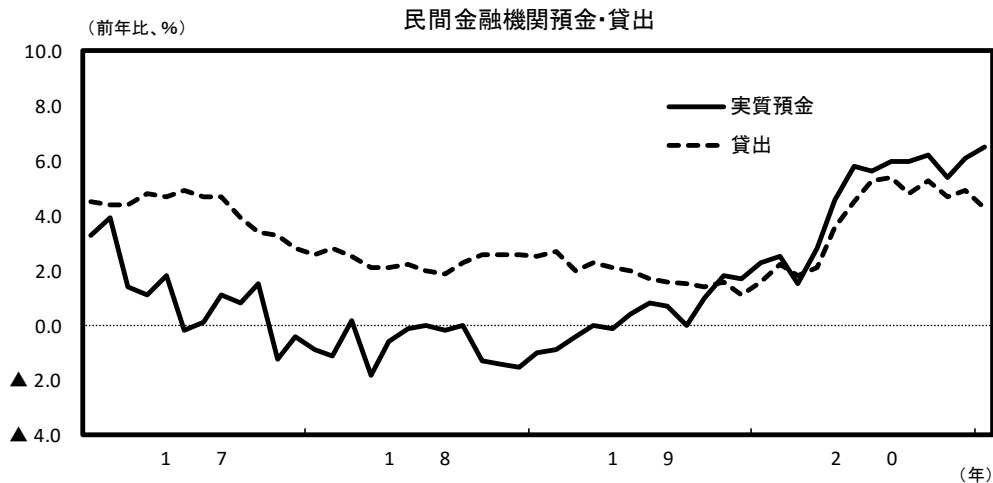
5. 金融情勢

実質預金は、一般預金（個人・法人預金）が前年を上回っていることなどから、全体でも前年を上回って推移している。

貸出は、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、既往ボトムの水準で推移している。

企業倒産は、落ち着いた動きとなっている。



以上